

上尾歴史散歩

241 上尾の古い地名をこう

■菅谷地区を縦断する ～菅谷～

「ぐるっとくん」を「上尾税務署」で下車すると、庁舎東側に沿って流れる小排水路を見ることが出来る。この小川は芝川の上流であるが、主要地方道上尾久喜線に架けられた小さな橋を、古くは「西谷橋」と称していた。菅谷地区の西方には「西谷」の小字があり、東方には「東谷」の小字があるので、小字名に關係する橋名とみられる(『武蔵国郡村誌』)。

小排水路から主要地方道を東へ四百メートルも歩くと、南北道路と交差する小さな交差点があり、右手の角に庚申塔がある。文政七(一八一四)年の建立であるが、これには道標はないが、この細い南北の道路が続く北方には、二基の庚申塔がある。これには道標も記されており、この細い南北道路はかつての基幹道路であったことが推定される。

交差点を左折して北上するが、この辺りは工場と住宅が混在している。二百五十メートルも歩くと、屋敷森のある家も見えてくるが、ここは旧菅谷村の小字「新田」である。近世期の菅谷村は村高五百石余であるが、「中地・上組・



山林地帯の入り口に建立されている庚申塔



(元埼玉県立博物館長・黒須茂)

下組・新田」の四つに分かれ、それぞれの地区に名主がいて統治されている。これは支配者に旗本が四人もおり、いわゆる相給村であったため、名主が四人おり四地区に分かれていたものとみられる(前掲書、『天保郷帳』)。

屋敷森のある集落の交差点から三百メートルも北上すると、工場に面した東西道路と交差する。交差点の右手に南面して安永七(一七七八)年の庚申塔を見ることが出来るが、ここでは東面した右手に「此方、くき(久喜)さつて(幸手)道」、左手に「此方、おけがわ(桶川)道」と刻まれている。細い道路で、明治初年の地図では人家もない所であるが、村の中で主要な交差点であったことになる(『迅速測図』)。

工場に対面している庚申塔から二百メートルも北上すると、山林地帯の入り口で道は左右に分岐している。その分岐点に、南面して庚申塔が建立されている。弘化二(一八四五)年のもので、右方に「此方せうぶ(菅蒲)・きさい(騎西)」左側面に「右はら(原)市・左かうのす(鴻巣)」と記されている。この道標から見ると、現在は細い道路であるが、市場町原市から鴻巣宿・騎西町への幹線道路であったことをうかがうことができる。この庚申塔から左手の道路を歩くと、住宅と山林が混在しているが、四百メートルほどで倉田村(桶川市)境に達する。鴻巣宿はまだ二里ほども遠方である。

わくわくクイズ

○に入る文字や数字を当ててください。

第5次上尾市総合計画で目指す将来都市像は「笑顔きらめく“○○○”なまち あげお」

(ヒントは2ページ)

【賞品】 正解者の中から抽選で5人に、粗品を差し上げます。

【応募方法】 はがきかメールにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、『広報あげお』の感想を記入して、4月20日(水)まで(必着)に上尾市広報課「わくわくクイズ係」へ。

あて先：〒362-8501本町3-1-1
メールアドレス：s55000@city.ageo.lg.jp

【発表】 賞品の発送をもって発表に代えさせていただきます。 ※正解は5月号のこのコーナーで。前号の答えは「禁煙」でした。ご応募ありがとうございました(応募者49人)。

市の人口・世帯

(平成23年3月1日現在)

22万7096人

男/11万3534人

女/11万3562人

※前月より29人増。

9万2272世帯

◆「広報あげお」は、各支所・出張所、JR上尾駅・北上尾駅のほか市内の各公共施設、金融機関などに置いてあり、自由に持ち帰れます。
◆環境保全のため、市内の公共施設へのお出掛けは市内循環バス「ぐるっとくん」をご利用ください。